

島名本田遺跡(しまなほんでんいせき)

所在地:つくば市島名字本田 1,052 番地ほか

調査期間:平成 29 年4月1日~9月 30 日

調査面積:5,052 m²

委託者:茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査原因:島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業

調査機関:公益財団法人茨城県教育財団(つくば島名事務所)

Tel.029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

1 遺跡の立地

島名本田遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高約 24mの台地上に立地しています。東側には、島名熊の山遺跡、北側に島名中代遺跡や島名関ノ台南B遺跡、南側に島名八幡前遺跡が所在しており、古墳時代から江戸時代にかけて連綿と集落が営まれています。

2 調査の成果

調査は、今年度で第4次調査となります。主に掘立柱建物跡、方形竪穴、井戸跡、地下式坑、堀跡、溝跡、道路跡、ピット群などを確認し、特に堀跡からは小皿・内耳鍋・播鉢などの土師質土器、天目茶碗・甕などの陶器、火鉢などの瓦質土器、砥石・石臼・茶臼・五輪塔などの石器・石製品、漆椀・杓子・下駄・臼などの木器・木製品が多量に出土しました。

特筆されるものとしては、木製の柄が残った包丁、棹秤の錘(おもり)である青銅製の権(けん)と思われるものが挙げられます。権は、全国的にみても出土例は稀で、城館や町家集落と考えられる遺跡から出土しています。

以上のような調査の結果、東側に大きな堀、南北に区画溝が巡り、この区画された内側には掘立柱建物跡の住まいや倉庫、井戸等の水場などからなる室町時代から江戸時代にかけての有力者の居宅・屋敷地の様相を捉えることができました。



島名本田遺跡と周辺の遺跡

「いばらきデジタルマップ」を加筆



木製の柄が残った状態で出土した包丁

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。
資料の引用・掲載はご遠慮願います。





投げ込まれた状態で出土した石臼, 五輪塔



橋脚部の調査の様子



小皿と鉄先, 杭など木製品の出土状況

SD72(堀跡)の調査

土坑の完掘状況

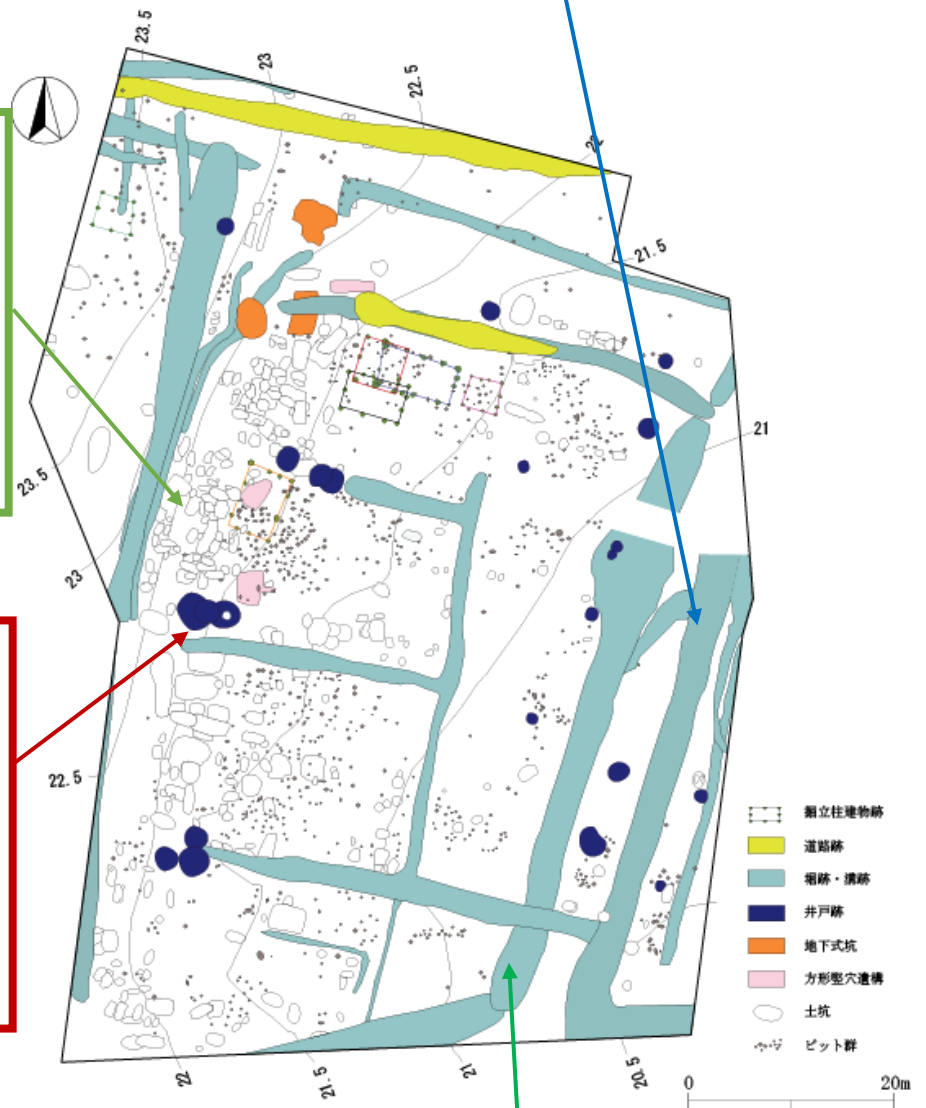


重複している土坑群

井戸跡の完掘状況



重複する3基の井戸跡



SD73(堀跡)の調査



逆さになった状態で出土した下駄



二つに割れた状態で出土した木製の臼



獣骨とともに出土した包丁